

# Bonjour

ボンジュール!!

2017年  
4月21日号

Vol.353



## IMF「世界経済見通し」から投資のヒントを

### ● IMF 世界経済見通し

国際通貨基金(IMF)は、4月18日世界経済見通し(WEO)を公表しました。

2017年の世界の成長率予想を3.5%とし、1月時点の3.4%から0.1%上方修正しました。

2018年の見通しについては、3.6%で据え置いています。

IMFは上方修正の背景として、金融市場の落ち着きや、製造業と貿易の循環的な回復などを指摘しています。一方、世界的な保護主義の広がりや米国の急速な利上げ、地政学的な緊張の高まりなどには懸念を示しました。

米国の2017年の成長率見通しは、1月時点から据え置き、2.3%の堅調な推移を見込んでいます。トランプ政権による減税や財政出動が見込まれることを反映したものです。

日本や欧州の成長率見通しは、1月時点から上方修正しました。製造業や貿易の回復の恩恵を受けると見込んでいます。

### ● 新興国は？

新興国の2017年の成長率見通しは、1月時点の4.5%から据え置きました。

国別に確認すると、インドやブラジルを1月時点から据え置いた一方、中国は6.6%と0.1%上方修正しました。その背景として、公的投資など当局の景気下支え策が維持されると見込んでいるためです。また、原油価格の回復に加

え、内需に強さが戻ったロシアも上方修正しています。

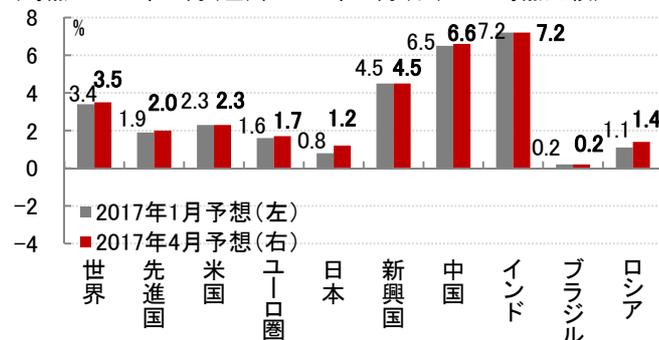
相対的に先進国よりも高い経済成長が期待される新興国。今回のIMFの見通しでも、新興国が長期的に魅力的な投資対象のひとつということが確認できたのではないのでしょうか。

### ● 投資のヒントに

世界経済が今後成長していくのか、どの地域や国で成長が見込まれるのかなどを確認することは、投資先を選ぶうえでのヒントになりそうです。IMFの世界経済見通しは年に4回(1月、4月、7月、10月)公表されますので、今後も注目する必要がありそうですね。

#### ■ IMFの主な国・地域の2017年経済成長見通し

(時点:2017年1月(左)、2017年4月(右)の2時点比較)



出所:国際通貨基金(IMF)のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。